

一般社団法人 日本病院前救急救命学会

平成29年度

事業報告書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

平成29年度事業報告書

平成 26 年 4 月に発会した日本病院前救急救命学会は、4 年目を迎え平成 29 年度の事業計画をほぼ予定どおり執行することができた。

なかでも、多くの皆様の協力を得て平成 29 年 6 月 13 日に、一般社団法人として登記を行うことができたことは、救急救命士の学術団体としては意義深く、役員一同、責任の重さを痛感しているところである。

また、任意団体から一般社団法人化するにあたって、監事を快く引き受けてくださった地方独立行政法人堺市立病院機構の副理事長である横田順一朗先生と、なかじま法務事務所の司法書士である中島亮先生には、就任以来、本法人の運営に関する貴重なご指導・ご助言を賜り、感謝申し上げる次第である。

さて、今年度の事務事業は、法人化前に作成した事業計画に基づき執行させていただいた。具体的な事業としては、まず法人化直前の平成 29 年 5 月 28 日（日）に、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された第 20 回日本臨床救急医学会総会・学術集会と同じ会場で、本学会の総会と鈴木健介副会長を会長とした第 3 回学術集会をジョイントセッションとして無事に開催できたことがあげられる。

この開催については、第 20 回日本臨床救急医学会総会・学術集会の会長である帝京大学医学部附属病院病院長の坂本哲也先生及び、副会長の東京消防庁救急部長の所属する救急部への挨拶を、張替喜世一・鈴木健介の両副会長が行い、同じ会場で本会の総会・学術集会を円滑にジョイントさせていただくために、本学会の設立趣旨などの説明を行わせていただいた。

特に、開催に当たり、第 20 回日本臨床救急医学会総会・学術集会の会長である帝京大学医学部附属病院病院長の坂本哲也先生には、ご高配を賜り心から感謝する次第である。

次に、第 5 回日本病院前救急救命学会ワークショップを法人化後の平成 30 年 3 月 16 日（金）に宮崎市の宮崎市中央公民館大研修室で、実行委員長を嶋本政雄理事とし、救急ネットワーク宮崎に共催をいただき行った。テーマは「病院前救護の現状と今後の課題について」とし、内容は 3 つの事例紹介に基づくワークショップを行い、その後、救急救命九州研修所教授である畑中哲生先生に「病院前救護の現状と今後の課題について」と題して教育講演を行っていただいたことがあげられる。

一方、法人化後の組織運営に関しては、「一般社団法人 日本病院前救急救命学会定款（以下、定款と称する。）」に基づき、理事長として張替喜世一副理事長に事務局長を依頼し、事務局を株式会社へるす出版に置くなど、法人運営に必要な事項を適宜、理事会を開催し決定した。

また、外部機関からの理事派遣依頼を審議・評決するとともに、委員会設置要領の制定を行い、今後さらなる法人運営の適正化のために、6 つの専門委員会（将来構想検討委員会・総務運営委員会・広報委員会・教育研修委員会・編集委員会・評議員審査委員会）を立ち上げ、順次検討を行っている

ところである。これらの審議・評決を行うために、定款に定める理事会の開催は計4回で、その内訳は通常理事会及び臨時理事会をそれぞれ2回開催した。

これらが、本法人の平成29年度に実施した事業の概要であるが、法人化後の初年度であることに伴う課題もいくつか発生した。

まず、多くの取り決め事項を審議するために、理事会開催費が膨らんだことや150人に及ぶ会員に対する十分な教育・研修の機会を提供することができていない現状があげられる。また、評議員を引き受けてくださった方々へ、本法人の運営に関して十分な参加機会を提供できていないことも課題の一つである。

これらを解決するために今後は、理事会の開催形式見直しによる旅費の支出軽減を行い、各種専門委員会で会員や評議員に対する教育・研修や本法人の運営に参加する機会を検討していくことを理事全員が確認しているところであり、今後の運営について会員諸氏のご理解とご協力をお願い申し上げる次第である。

以上、平成29年度は大きな目標の一つであった「一般社団法人 日本病院前救急救命学会」の登記が完了したことから、本法人の定款第50条に基づき、理事長として平成29年度の事業を下記のとおり報告する。

記

1 日本病院前救急救命学会第3回総会・学術集会の開催（法人化前）

東京都で開催された第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会のジョイントセッションとして本学会の第3回総会及び学術集会を次のとおり開催した。

- (1) 日 時：平成29年5月28日（日）8時30分から12時30分まで
- (2) 会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区有明3-11-1）
会議棟701・702会議室
- (3) 学術集会会長：鈴木 健介（日本体育大学）
テーマ：「次世代への挑戦」～Challenge to the next generation～

【総会】

- (4) 8:30-9:30 平成28年度日本病院前救急救命学会総会
ア 日本病院前救急救命学会会長挨拶（坂田武）
イ 平成28年度事業報告、平成28年度決算報告（坂田武・張替喜世一）
ウ 平成29年度事業計画、平成29年度予算案（坂田武・張替喜世一）

【学術集会】

- (5) 9:30-9:50 第3回日本病院前救急救命学会学術集会会長講演
日本体育大学救急蘇生・災害医療学研究室：鈴木健介
- (6) 9:50-11:10 ワークショップ「初めの研究～経験を根拠に～」
大阪大学大学院医学系研究科/グローニンゲン大学医学研究所：坂庭嶺人
- (9) 11:10-12:22 一般演題
座長：弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科：中川貴仁

国士舘大学体育学部スポーツ医科学科:喜熨斗智也

演題1:熊本地震から学んだこと

(熊本市消防局:西岡 和男)

演題2:僕の前に道はない、僕の後ろに道はできる

(鹿島地方事務組合消防本部メディカル・アドバイザー:鶴岡信)

演題3:興行イベントにおける民間救急救命士を活用した病院前救護体制の取り組み

(国士舘大学防災・救急救助総合研究所:上杉純平)

演題4:病院所属救急救命士が担うロジスティックスの重要性

(医療法人伯鳳会 東京曳舟病院:長橋和希)

演題5:日本臨床救急医学会提言に対する DNAR の対応について

(石橋地区消防組合:北村浩一)

演題6:救急隊による病院前 12 誘導心電計の活用と教育

(日本救急システム株式会社:大谷浩史)

演題7:病院救急救命士の役割と今後の方向性

(社会医療法人緑泉会 米盛病院:古賀司)

演題8:大学生における防災意識についての調査

(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科:藤田莉乃)

演題9:救急救命士学生による早期体験実習~米国シアトル救急車同乗実習の効果~

(日本体育大学保健医療学部救急医療学科:齋藤千真)

(11) 12:22-12:25 クロージング「病院前救急救命学会の今後の挑戦」

(日本病院前救急救命学会会長:坂田武)

(12) 12:25-12:30 閉会挨拶:次回第4回日本病院前救急救命学会学術集会会長

(小澤 和弘:愛知医科大学災害医療研究センター)

2 第5回日本病院前救急救命学会ワークショップ(法人化後)

(1) 日 時:平成30年3月16日(金)14時00分から16時30分まで(13時30分受付開始)

(2) 場 所:宮崎市中央公民館大研修室(宮崎県宮崎市宮崎駅東一丁目2-7)

(3) 主 催:一般社団法人 日本病院前救急救命学会

共 催:救急ネットワーク宮崎

(3) テーマ:「病院前救護の現状と今後の課題について」

(4) 参加者:120人

(5) 内 容

14:00-14:05 開会挨拶 日本病院前救急救命学会副会長 張替 喜世一

14:05-15:05 ワークショップ:病院前救護の現状と今後の課題について

座長:国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授 張替 喜世一

アドバイザー:救急救命九州研修所 教授 畑中 哲生

事例1:マシガザリングにおける救急救命士の取り組みとMC体制の構築

~東京マラソン救命率100%の秘訣~

(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 助教授 喜熨斗 智也)

事例2：役場救急実施自治体における民間救急救命士の活用

(日本救急システム株式会社 -JEMS 代表取締役 白川 透)

事例3：病院救急救命士の役割と今後の方向性の一例

(社会医療法人緑泉会 米盛病院 救急連携課 課長 古賀 司)

15:15-16:15 教育講演：病院前救護の現状と今後の課題について

救急救命九州研修所 教授 畑中 哲生

16:15-16:20 閉会挨拶 救急ネットワーク宮崎 代表

3 一般社団法人日本病院前救急救命学会役員会等（法人化後）

(1) 第1回臨時理事会

平成29年6月13日付で、一般社団法人日本病院前救急救命学会として登記が完了したことから早急に理事会で決定しなければならない事象があるため、本学会の定款第35条に基づく臨時理事会を理事長が招集した。

なお、決議方法については定款第37条に基づき、提出された議案について電磁的記録による意思表示によるものとした。また、監事の異議表明も同様とした。

ア 議案審議・検討期間

平成29年6月20日（火）から平成29年6月25日（日）18時00分まで

イ 票決期間

平成29年6月26日（月）から平成29年6月30日（金）18時00分まで

ウ 票決要領

議決は、次の例示に従い理事は議案に対する同意を、監事は異議の有無を記載した電子メールを事務局（jspels@herusu-shuppan.co.jp）へ、送付することで行った。

その結果、総数11人の理事全員が同意し、総数2人の監事全員の異議なしが確認され、次項に示す提出議案の第一号から第6号までの全議案が承認された。

エ 議案提出者

坂田 武（理事長）

オ 票決結果

a 第1号議案：副理事長の指名・選定の件

本法人の定款第26条第2項及び定款施行細則第13条第2項に基づき、理事長の指名した次の3人の理事を副理事長とする。

- ・張替喜世一理事（国士舘大学大学院救急システム研究科）
- ・脇田佳典理事（和歌山県消防学校）
- ・鈴木健介理事（日本体育大学保健医療学部）

b 第2号議案：事務局の設置の件

本法人の定款第42条第1項に基づき、同定款第2条に定めた主たる事務所である株式会社へるす出版内に、事務局を設置する。

c 第3号議案：事務局長任命の件

本法人の定款第42条第3項に基づき、理事長が任命した張替喜世一理事（国士舘大学大学院救急システム研究科）を事務局長とする。

d 第4号議案：委員会設置の件

本法人の定款第41条第1項及び第2項に基づき、次のとおり委員会を設置し、それぞれの委員会の委員長及び主な所掌事務（活動内容）を決定した。

① 将来構想検討委員会

・委員長は脇田佳典理事（和歌山県消防学校）

・所掌事務（活動内容）

本法人の将来像を議論し、現状の課題を整理したうえで、具体的活動を提言する。

学会の各種活動及び他学会との連携・調整等に関わる事項について議論する。

② 第4回学術集会運営委員会

・委員長は張替喜世一理事（国士舘大学大学院救急システム研究科）

・所掌事務（活動内容）

第4回学術集会会長を補佐し、第4回学術集会の開催に関わる調整及び準備等を行う。

③ 総務運営委員会

・委員長は嶋本政雄理事（北九州市若松消防署警防課）

・所掌事務（活動内容）

本法人の総務・庶務に関する業務について、事務局と協同して事務局長を補佐する。

定款・施行細則に基づき、学会の円滑な運営に必要な要綱・要領などについて

検討し、必要となる取り決め事項を提言する。

④ 広報委員会

・委員長は喜熨斗智也理事（国士舘大学体育学部スポーツ医科学科）

・所掌事務（活動内容）

本法人の定款第3条に定める目的に、寄与する広報活動を行う。

ホームページ管理に対し責任を持ち、会員に向けた情報を発信する。

会員数増加を目的とした広報要領を検討し、必要となる活動案を提言する。

e 第5号議案：学術集会会長選定の件

本法人の定款第33条第1項及び第2項に基づき、第4回学術集会（平成30年度）及び第5回学術集会（平成31年度）をそれぞれ日本臨床救急医学会との併設開催とし、学術集会会長の選定を行い、次のとおり決定した。

① 第4回学術集会会長（第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会併設：愛知県）

小澤和弘理事（愛知医科大学災害医療研究センター）

② 第5回学術集会会長（第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会併設：和歌山県）

脇田佳典理事（和歌山県消防学校）

f 第6号議案：委員会設置要領策定の件

委員会について、定款第41条第5項の『委員会に関し、その他必要な事項は、理事会において決定する。』に基づき、「委員会設置要領」を定めた。

(2) 第1回通常理事会

ア 日 時：平成29年8月28日（月） 19時00分から21時03分まで

イ 場 所：福岡県北九州市（理事長・議長宅：スカイプシステムによる会議）

ウ 出席者

a 出席理事：理事総数11人中、8人出席

坂田 武、張替 喜世一、中川 貴仁、関根 和弘、山内 一
脇田 佳典、嶋本 政雄、津波古 憲

b 出席監事：監事総数2人中、1人出席

横田 順一郎

c 議長：坂田 武（理事長）

エ 議案提出者

坂田 武（理事長）

オ 審議・事項

a 定款に基づく理事長の職務執行状況の報告

b 平成29年度予算に基づき締結した株式会社へるす出版と事務委託契約の報告

c 将来構想検討委員会の委員長（脇田副理事長）から本法人定款第41条の規定及び委員会設置要領に基づき報告のあった次の委員について理事会で承認された。

<将来構想検討委員会の委員（敬称略）>

委員長 脇田 佳典（和歌山県消防学校）

副委員長 吉井 克昌（奈良県広域消防組合）

〃 原 貴大（国士舘大学大学院）

委員 山内 一（新潟医療福祉大学）

〃 松浦 治人（泉州南消防組合）

〃 中川 貴仁（弘前医療福祉大学）

〃 喜熨斗 智也（国士舘大学）

〃 西岡 和男（熊本市消防局）

d 総務運営委員会の委員長（嶋本理事）から本法人定款第41条の規定及び委員会設置要領に基づき報告のあった次の委員について理事会で承認された。

<総務運営委員会の委員（敬称略）>

委員長 嶋本 政雄（北九州市若松消防署）

副委員長 吉井 友和（出雲市消防本部）

〃 後藤 正和（熊本総合医療リハビリテーション学院）

委員 岩崎 全孝（東京地下鉄株式会社）

〃 矢島 茂樹（佐倉市八街市酒々井町消防組合）

〃 染谷 泰子（JAとりで総合医療センター）

〃 長橋 和希（医療法人伯鳳会東京曳舟病院）

e 広報委員会の委員長（喜熨斗理事）から本法人定款第41条の規定及び委員会設置要領に基づき報告のあった次の委員について理事会で承認された。

<第4回広報委員会委員>

委員長 喜熨斗 智也（国士舘大学）

副委員長 一柳 保（高野町消防本部）

〃 津波古 憲（川崎市消防局）

f 第4回学術集会運営委員会の委員長である張替副理事長から次のとおり、同委員会の委員を選出したとの報告が行われた。

<第4回学術集会実行委員会委員>

- 委員長 張替 喜世一 (国士舘大学)
副委員長 喜熨斗 智也 (国士舘大学)
〃 津波古 憲 (川崎市消防局)
委員 若松 淳 (胆振東部消防組合)
〃 北村 浩一 (石橋地区消防組合)
〃 原 貴大 (国士舘大学)
〃 一柳 保 (高野町消防本部)
〃 吉井 友和 (出雲市消防本部)
〃 白川 透 (日本救急システム)

- g 一般社団法人病院前救護統括体制認定機構からの入会・人材派遣依頼を審議したが、次期理事会へ持ち越審議とした。
h 一般社団法人日本蘇生協議会からの入会・人材派遣依頼を審議したが、次期理事会へ持ち越審議とした。

(3) 第2回臨時理事会

ア 日 時：平成29年12月5日(火) 13時30分から17時30分まで

イ 場 所：コンベンションルームAP品川9階会議室「O」(オー)

東京都港区高輪 3-25-23 京急第2ビル

ウ 出席者

- a 出席理事：理事総数11人中、8人出席
津波古 憲、中川 貴仁、喜熨斗 智也、山内 一、
嶋本 政雄、脇田 佳典、張替 喜世一、坂田 武
※山内理事は14時00分から出席し、すべての議案の採決に参加した。
b 出席監事：監事総数2人、出席者なし
c 議 長：坂田 武 (理事長)

エ 議案提出者

坂田 武 (理事長)

オ 審議・事項

- a 第1号議案：各委員会の進行状況報告及び委員会間の連絡調整の件
次の既設4委員会の委員長が、委員会の開催状況と今後の予定及び各委員会間の調整事項について報告を行った。
・将来構想検討委員会 (脇田佳典委員長)
・総務運営委員会 (嶋本政雄委員長)
・広報委員会 (喜熨斗智也委員長)
・第4回学術集会実行委員会 (張替喜世一委員長)
b 第2号議案：委員会の立ち上げの件
今後、立ち上げる3つの委員会とそれぞれの委員長を次のとおりとし、各委員長は次回理事会までに構成委員の選任を行い理事会の承認を受けることとした。
・編集委員会 (委員長は津波古憲理事)

- ・教育研修委員会（委員長は脇田佳典副理事長）
- ・評議員審査委員会（委員長は、中川貴仁理事）
- c 第3号議案：各委員会の構成員のホームページ掲載の件
理事会で承認後の各委員会の構成員を、会員メーリングリストで本人の了解を得たうえで、平成30年1月初旬を目途ホームページに掲載することとした。
- d 第4号議案：平成29年度ワークショップの実施の件
平成29年度事業計画に挙げるワークショップの実行委員長を嶋本政雄理事として、平成30年3月16日に宮崎市での開催を企画・実行することとした。
- e 第5号議案：平成29年度第2回通常理事会の実施時期の件
平成29年度第2回通常理事会の実施時期を平成29年2月中旬から3月25日の間に開催することとして、中川貴仁理事が日程調整を行うこととした。
- f 第6号議案：ホームページの契約の事務局移管の件
本法人の事務局と喜熨斗智也理事において、ホームページの契約者名を、本法人名に変更し、支払い請求先を本法人事務局とすることとした。
- g 第7号議案：一般社団法人JPTEC協議会への派遣理事の件
一般社団法人JPTEC協議会の平成30年度から2年間の理事に、引き続き坂田理事長を推薦することとした。
- h 第8号議案：一般社団法人日本蘇生協議会への入会の件
現時点では入会しないこととし、同協議会が国際的な活躍の場でもあり、今後、本法人が予算的・人的に余裕と実力が具備されたと判断されるようになった段階で、入会を再度検討することとした。
- i 第9号議案：一般社団法人病院前救護統括体制認定機構への入会及び理事・委員会委員派遣の件
評決の結果、一般社団法人病院前救護統括体制認定機構（以下、機構と称する。）へ入会し、理事として鈴木健介副理事長を推薦するとともに、単年度の会費と鈴木副会長が機構の理事会へ出席する際の旅費を支出することとした。
- j 第10号議案：理事会開催及び前記議案採決の結果必要となる予算修正の件
第2回臨時理事会及び来年の2月から3月に行う第2回通常理事会に係る旅費が、平成29年度当初予算の会議費で不足する場合は、不足金額について繰越金から補填することとした。

（4）第2回通常理事会

ア 日 時：平成30年3月6日(火) 13時30分から17時00分まで

イ 場 所：コンベンションルームAP品川7階会議室 会議室「X（エックス）1・2」
東京都港区高輪3-25-23 京急第2ビル

ウ 出席者

- a 出席理事：理事総数11人中、8人出席
津波古 憲、中川 貴仁、喜熨斗 智也、山内 一、
関根 和弘、脇田 佳典、張替 喜世一、坂田 武
- b 出席監事：監事総数2人、1人出席

横田 順一郎

c 議長：坂田 武（理事長）

エ 議案提出者

坂田 武（理事長）

オ 審議・事項

a 第1号議案：第2回臨時理事会以降の本法人の活動状況の件

理事長が、第2回臨時理事会以降の本法人の活動状況の説明を行った。

b 第2号議案：平成29年度ワークショップ実施の件

実行委員長である嶋本政雄理事が欠席のため、同理事が作成した同ワークショップの実施概要に基づき内容を理事長が説明した。また、張替副理事長が参加者の申込状況を報告した。

c 第3号議案：平成29年度事業報告及び決算の件

理事長から定款第50条に基づき、理事長は毎事業年度、次の書類及び附属明細書を作成して、監事の監査を受け、理事会の承認を経た後、定時評議員会に提出し、③の書類についてはその内容を報告し、①、②及び④の各書類については承認を求めなければならないことの説明を行った。

①貸借対照表、②損益計算書（正味財産増減計算書）、③事業報告書、④附属明細書
このことから、次の5点の取り決めを行った。

1点目は、次期理事会である平成30年度第1回通常理事会の日程は、審議の結果、第一候補を平成30年5月31日（木）、第二候補を6月1日（金）として名古屋国際会議場又はその周辺で開催することし、正式な日程調整については今後、理事会で調整を行うこととした。

2点目は、定款第50条に基づく、各書類は平成30年度第1回通常理事会承認後に、平成30年6月1日（金）9時20分から10時00分開催の平成30年度本学会社員総会（定時評議員会）に提出し、評議員への報告・承認を受けるため、定款第21条第1項に基づき評議員を招集することとした。

3点目は、今までの任意団体時の総会は、学会員すべてが参加する形式で開催していたが、法人化後は、定款に定められた社員総会（定時評議員会）を開催する必要があることが確認された。このため、平成30年6月1日（金）9時20分から10時00分に開催が決定した平成30年度本学会社員総会（定時評議員会）には、評議員以外の一般会員も参加可能とすることとした。

4点目は、理事長が定時評議員会の開催要領について説明を行い、定款第21条第2項に基づき、各評議員へ会日（6月1日）より7日前までに、開催日時、場所及び議題を記載した書面をもって、各評議員に対して通知を発しなければならない点について、事務局が招集通知書の郵送を行うことを確認した。

なお、定時評議員会は日本臨床救急医学学会に併設して開催することから、日本臨床救急医学学会への参加費を納入しての入場が必要なことから、通知文にその旨を記載することとした。また、招集通知書の郵送に際しては、定款第22条第2項に基づき、評議員が出席できない場合の議決権行使書及び他の評議員への委任状を同封すること。各様

式は、総務運営委員会に作成依頼する予定であったが、理事長が作成することとした。

5点目は、事務局長である張替副理事長が配布資料Aに基づき、平成30年3月4日現在の平成29年度予算の執行状況の説明を行い、この説明の中で、理事会開催時の旅費の支出が多いことの報告に対して、横田監事から健全な学会運営のために、旅費を抑えるために日本臨床救急医学会や全国救急隊員シンポジウム開催時に理事会を開催するなどの工夫が必要との意見が寄せられた。加えて出席者からZOOMというインターネットを利用した会議が、無料使用（時間制限あり）または、年間150ドル程度の予算で使用でき、スカイプより使いやすいとの意見が出たことから来年度、会員情報交換費からの支出を可能として今後、採用を検討することとした。

d 第4号議案：平成30年度事業計画及び収支予算の件

理事長から平成30年度事業計画書（案）の説明が行われ、「3 国内外における関係諸団体との交流（定款第4条第4項）」において『関係各機関、諸団体との交流を行う。』について、現在の本学会の状況を考えるといまだ基盤が脆弱なため『関係各機関、諸団体との交流の検討を行う。』に原案を修正することで平成30年度事業計画書が決定した。このことから、次の5点の取り決め・確認を行った。

1点目は、平成30年度事業計画書にあるワークショップの企画・実行する責任者の人選等については、教育研修委員会に諮問することを脇田委員長が了承したことから教育研修委員会に諮問することとした。

2点目は、平成30年度事業計画書に基づき、事務局において平成30年度収支予算書を作成し、次期理事会である平成30年度第1回通常理事会に諮ることとした。

3点目は、平成30年度収支予算書の理事会承認が遅れることから、定款第49条第2項に基づき予算が成立していない期間については、予算成立の日まで前年度の予算に準じ暫定予算を構成し、収入を得又は支出することとした。

4点目は、機関誌の刊行については、今までのへるす出版との協議経過を考慮し、編集委員会において、信頼関係を崩さないように協議を行う必要があることを確認した。

5点目は、予算において収入を増やすために会員数増加に加えて、ワークショップや研修会で収入を得ることを考える必要があることを確認した。

e 第5号議案：平成30年度総会・学術集会（名古屋開催）の件

平成30年度社員総会（定時評議員会）の内容について、理事長が説明を行った。

第4回学術集会（平成30年度）の概要について、同学術集会実行委員長の張替副理事長が今後の予定について説明を行った。

f 第6号議案：2019年度総会・学術集会（和歌山開催）の件

平成31年度社員総会（定時評議員会）の内容について、理事長が次の2点の説明を行った。

1点目は、定款施行細則第6条から2019年6月ごろに行う社員総会（定時評議員会）は、選挙評議員会と位置づけられ、理事候補者及び監事候補者の選出を選挙で行うため評議員会の開催予定日のおよそ3か月前（平成31年3月ごろ）を目安に選挙管理委員会を設置する必要がある。選挙管理委員会の構成員は、評議員3名とし、理事会の決議を必要とする。（構成員3名は、立候補できない。）また、立候補申請書や推薦書などの様式を事前に作成する必要がある。

2点目は、新たな評議員の選出に関しては、評議員候補者の資格に、申請時に3年以上の会員歴が必要であることから理事会審査後に2020年度社員総会（定時評議員会）の承認決議からとなると思われる。（任意団体時の会員期間を会員歴に含むと解せば、2019年度総会（定時評議員会）からも可能となる。また、評議員立候補者審査申請書などの様式を事前に作成する必要がある。

g 第7号議案：新規に立ち上げた委員会の委員の承認の件

教育研修委員会の委員長（脇田副理事長）から本法人定款第41条の規定及び委員会設置要領に基づき報告のあった次の委員について理事会で承認された。

<教育研修委員会の委員（敬称略）>

委員長 脇田 佳典（和歌山県消防学校）
副委員長 後藤 正和（熊本総合医療リハビリテーション学院）
〃 一柳 保（高野町消防本部）
委員 花田 利男（宗像地区消防本部）
〃 北村 浩一（石橋地区消防組合消防本部）
〃 田尻 浩昭（帝京大学福岡医療技術学部）
〃 竹田 豊（出雲市消防本部）
〃 森出 智晴（札幌市消防局）
〃 吉井 克昌（奈良県広域消防組合消防本部）
〃 西岡 和男（熊本市消防局）

h 第8号議案：各委員会の進行状況報告及び委員会間の連絡調整の件

次の既設4委員会の委員長が、委員会の開催状況と今後の予定及び各委員会間の調整事項について報告を行った。

- ・将来構想検討委員会（脇田佳典委員長）
- ・総務運営委員会（嶋本政雄委員長）
- ・広報委員会（喜熨斗智也委員長）
- ・編集委員会（津波古憲委員長）
- ・評議員審査委員会（中川貴仁委員長）

その他、委員会について次の5点について確認を行った。

1点目は、張替事務局長から各委員会の活動報告を次の理事会又は、社員総会で報告する必要があるため、各委員長は文書で活動報告を行うよう確認された。

2点目は、委員未選任の委員会委員長は、委員を人選の上、理事会に承認依頼を行うこと。

3点目は、副委員長2人については、理事以外の評議員からの選出を行い、広く評議員に本法人の運営、活動に参加していただくこと。

4点目は、本法人の定款で、委員会の委員長は理事であることから、今後、新たに委員会が設置される場合、現在、委員会の委員長に未就任の理事の方々に委員長をお願いすること。

5点目は、各委員会の委員長が行う委員の選出は、広く会員から公募することを考慮すること。

以上

平成30年4月1日作成、一般社団法人 日本病院前救急救命学会 代表理事 坂田 武